

# 2011.11.7 第6号



#### 11/27 (日) 大阪ダブル選 21面

### 6面 HUBchariとは

#### ニュース

レアメタルフリーの電池を開発 e-learning 自宅でも可能に 市大理学研究科の躍進 2012年度 学牛海外派遣

#### コラム

市大、経済誌調査で14位 本と向き合う 震災とHijicho 連載「123日間世界一周」 連載「海外インターンを選んだ理由」

#### ▶2面

▶2面 ▶3面

**▶**4面

▶15面

▶16面

▶26面

▶28面

▶13面

### 12面 留学生交流会を開催

#### イベント

我ら"国境なきナベ団" あさかで祭り開催

美味しいお茶でおもてなし 茶道部

銀杏祭フォトレポート

#### ▶10面

▶14面

▶18面

▶31面

#### お知らせ

自転車シールを盗られたら Hijicho Radio、iTunesでも配信 Hijicho Webが携帯電話に対応 F.L.D. 舞台のお知らせ

**▶**5面 ▶10面

▶13面

▶30面 ▶32面

I Work Together!スタッフ募集♪

### レアメタルフリーの大容量電池開発 阪大と共同で

工位武治特任教授 (大阪市立大学大学院理学研究科) と森田靖准教授 (大阪大学大学院理学研究科) らの研究 グループが、有機分子スピンバッテリーを開発した。

両大学が10月17日、共同でプレスリリースした。最新の研究成果は、Nature Materials の電子版・オンライン速報版に同日掲載された。

有機分子スピンバッテリーは、レアメタルを含む化合物が不要で、かつ従来のリチウムイオン電池の1.3~2倍の電気容量をもつことが特徴だ。従来のリチウムイオン電池の製造には、レアメタルを含むコバルト酸リチウムが必要。リチウムイオン電池は携帯電話やノートパソコンの電池に使用されており、将来的には電気自動車市場での需要拡大が見込まれているため、製造にあたってレアメタルの価格高騰の問題にも直面していた。

有機分子スピンバッテリーの製造コストについて 研究グループは、プレスリリースの中で、「現時点 では、実験室レベルの合成スケールなので正確な見 積は困難」としながらも、「合成段階数が短く、仕 込み原料に対する合成収率が高いので製造コストは 低く抑えることが可能」と期待を示している。 レアメタルのうち、特に希少な17元素を指す「レアアース」の97%を産出していたのが中国(2007年度)。産業界では国内最大手のトヨタ自動車が10月3日、ハイブリッド車のモーターや電池を中国で生産すると発表していた。有機分子スピンバッテリーの開発は、今後の電池産業界に大きな影響を及ぼしそうだ。

加賀友基 (Hijicho)

#### 参考

レアメタルフリー、大電気容量の有機分子スピンバッテリーの開発

http://www.osaka-cu.ac.jp/news/pdf/pe9b9a755.pdf

資源問題研究会『一目でわかる! 最新 世界 資源マップ』ダイヤモンド社,2008年

# 英語のe-learning教材 自宅のパソコンから使用可能に

全学共通教育棟5階にある英語教育開発センター「English Café」で利用できる英語学習用のe-learning教材「ALC NetAcademy2」が、自宅のパソコンからも利用できるようになった。

#### このシステムでできること

「ALC NetAcademy2」は、初級から上級までの 幅広いレベルの学習に対応し、次のような学習を することができる。

- ・TOEIC®テストの演習 (2006年5月リニューアル版 TOEIC®テストに対応、500間が用意されている)
- ・話速変換機能で速聴力をUp
- ・異なるパターンの練習で速読力をUp
- ・シャドーイングやディクテーション機能で英語力 を強化

#### 利用したい方は

学習希望者は、大学ホームページの全学ポータルサイトにログインし、「お知らせ」→「学生掲示板」→「全学生対象のお知らせ」へ。利用するための詳しい手順は、そこに挙がっている「ALC NetAcademy2の自宅からの利用方法について」に記されている。なお、このシステムは原則、学部生が対象となっている。院生で利用したい方は英語教育開発センターで登録をする必要がある。また同教材は、全学共通教育棟5階の英語教育開発センター「English Café」でも引き続き利用することができる。

島田隼人 (Hijicho)

03 **Hijicho 市大新聞** 第6号 2011年11月7日

# 市大理学研究科の躍進

9月30日の大阪市会本会議において、大阪市立大学人工光合成研究拠点の設立・整備のために8億8,000万円の追加補正が認められた。また、工位(たくい)武治特任教授(大阪市立大学大学院理学研究科)と森田靖准教授(大阪大学大学院理学研究科)らの研究グループは、有機分子スピンバッテリーを開発した。10月17日に両大学が共同でプレスリリースした。

どちらも理学研究科の素晴らしい業績だ。理学研究科長の櫻木弘之氏に、人工光合成や有機分子スピンバッテリーについて解説してもらった。

水野佑充子 (Hijicho)

#### 「人工光合成研究拠点の整備」について

本学の理系の研究分野の垣根を越えた先端科学技術の研究を推進する目的で、理学研究科が中心となって創設された「複合先端研究機構」では、幾つかの大きな成果が生まれつつあります。その一つが、同機構の神谷教授、橋本教授(共に理学研究科教授も兼任)らの研究グループが進めている人工光合成の研究です。特に、昨年Natureに掲載された神谷教授らの研究グループによる「光合成による酸素発生機構の分子的な解明」が注目を浴びています。

植物が光合成により、光のエネルギーを使って水と二酸化炭素から炭水化物を合成し酸素を発生させる、という事は学校で習って誰でも知っています。そのメカニズムも殆どは解明されていましたが、一つだけ分かっていない事がありました。それは、光合成の第1段階で、太陽光のエネルギーを受け取って、それを化学エネルギーに変え、そのエネルギーで水を水素と酸素に分解し酸素を発生させる、このもっとも重要な光化学反応を担っているPSIIと呼ばれるタンパク質の中にある「金属クラスター」の化学構造です。神谷教授らはX線を使った高分解能解析により、この化学構造を世界で初めて解明しました。

この成果の真の意義は単なる光合成のメカニズム解明 (これ自体もすごいことですが)ではありません。この化学構造を元にして、水を分解し酸素を発生させることができる新しい触媒 (化学反応を促進する物質)を開発して植物を用いない「人工光合成」を実現し、更にはそれを用いてバイオメタノールを生産する、という夢のような技術開発の可能性が開けたことを意味します。無論、その実現には越えなければならない多くのハードルが存在しますが、大阪市は、このプロジェクトの社会的重要性を認め、この研究成果をはじめ本学で進められてきた関連研究を核に、大学の枠を超えて内外の企業・研究機関と連携してこの研究プロジェクトを本格的に推進する「人工光合成研究拠

点」を設立・整備することを決め、そのための費用として、本年度の補正予算で総額8.8億円を措置することを決定しました。今後の成果を大いに期待しています。

# 「レアメタルフリーの大容量有機分子スピンバッテリーの開発」について

これは本学理学研究科の工位武治特任教授の研 究グループが、大阪大学理学研究科の森田靖准教 授の研究グループと共同で開発したものです。携帯 電話やパソコンなどで現在広く使われて従来のリ チウムイオン電池には、希少金属 (レアメタル) の 一種であるコバルトが電極に使われていますが、 ご存知のように近年レアメタルは国際的にも需要 が高まり資源不足や価格高騰等でその確保が困難 になりつつあり、国際問題にもなりつつあります。 このような中、工位特任教授らは、コバルトの代 りに、電気を効率よく蓄えることのできる「トリ オキソトリアンギュレン (TOT)」という有機物 (炭 素化合物) を含む何種類かの有機スピン分子を理論 設計し化学合成することで、レアメタルを必要と しない、新しいリチウムイオン電池を開発したも のです。しかも従来のリチウムイオン電池の約2倍 の電気容量、1.3倍の放電容量をもつ電池が出来た と報告されています。

この研究成果は去る10月17日、この研究分野では国際的に最も権威のある学術誌の一つであるNature Materialsの電子版に速報として掲載され、NHKニュース(全国放送)や新聞各紙でも大きく報道されました。これは、本学理学研究科の基礎研究と技術開発研究のレベルの高さの一端を示すものとして、大変誇らしい成果です。この研究は、現在は開発段階ですが、実用化に向けて産学連携で研究が進められる予定で、今後の資源、エネルギー、産業、経済など社会への大きな波及効果も期待されます。

櫻木弘之 (理学研究科長)

04 **Hijicho 市大新聞** 第6号 2011年11月7日

# 市大は強い! 経済誌調査で国内14位

10月22日付けの『東洋経済』の特集「2011年版「本当に強い大学」総合ランキング」で、大阪市立大学が14位にランクインしていることがわかった。

昨年の17位から3つランクを上げており、公立大学では名古屋市立大学に次いで2番目の順位だ。

#### 3つの評価基準

このランキングの評価軸は合計11あるが、特に重視されているのが、「教育力」「就職力」「財務力」の3つだ。「教育力」を測る指標としては「教育研究充実度(教育研究にどれだけのおカネをかけているか)」「学生1人当たりの図書資産」「教員1人当たりの学生数」「科学研究費補助金」などがある。「就職力」は卒業生から大学院進学者を引いた人数に対する就職決定者数の比率であり、多くの大学が宣伝に使っている。最後に「財務力」については、「経営利益率」で収益率を測り、「自己資本比率」で財務の安定性を見ている。「自己努力収入比率」により、大学の自助努力で得られる資金の多さがわかる。また、「志願者増減比率」は、今年の受験者数の5年前比であり、志願者が増えれば入学検定料が増え、財務が改善される。

#### オープンキャンパスの重要性

オープンキャンパスは、大学が高校生に向けて 情報を発信する1番の機会だ。それゆえ、ただ大学 が発信したい情報を発信するだけの自己満足に終 わってしまっては、志願者が増えるかは疑問だ。 いかに高校生のニーズに応えられるかがポイント となる。現在の高校生が知りたがっているのは、 なんといっても受験と就職、そして学生自身の姿 だろう。たしかに、大学でどのような研究が出来 るのかを発信するのも必要かもしれないが、研究 する前に入学できなければ意味がない。また、研 究できてもその後の生活ができなければ入学した いと思わないだろう。そして、「市大生」とはど ういう人たちなのか。学生の姿を発信するのは、 大学ではなく学生自身のほうが効果的だろう。受 験と就職の情報を発信しつつ、市大独自の取り組 みをアピールすることが不可欠だ。

そんな中、関西地域の高校生に聞いた「志願したい大学ランキング」では、大阪市立大学は5位にランクインした。なんと大阪大学(6位)よりも上位だ。

オープンキャンパスについては以前、文学部と経済学部、それに体育会の取り組みについて紹介した。学生自身が主体的に取り組む姿などが印象に残ったのか、高校生達からの評価も高かった。学生の主体的な活動は大学の魅力の向上にもつながり、志願者が増す要因となると考えられるの

で、このような取り組みはどんどん行うべきであるし、また大学もそれを支援するべきだ。というのも、市大には大阪府立大学という強敵が控えているからだ。府大は特に理系学部が強い大学として知られており、理系分野の就職力では市大より上位に立つ。理系に限って言えば、企業側は市大生よりも府大生を採用しようという動きが見られる。今後も市大が受験生を確保するためには、とりわけ理系学部の取り組みが重要と思われる。

#### 入りやすい、それでも強い!

また、「学部別難易度ランキング」も発表されており、法学系では、大阪市立大学は18位にランクインした。同率順位の大学には広島大学や九州大学などがある。ただし、学部別難易度ランキングでランクインしたのは法学系だけであった。経済・経営・商学系でもランク外となっており、かつての商科大学はどこへやらと思われる方もいるかもしれない。

しかしこれは「難易度ランキング」。すなわち、入学するまでに越えなければならない壁の高さであり、純粋な大学の実力と見ることはできない。むしろ、「大阪市立大学は入学するのはそれほど難しくないにもかかわらず、『総合力の強い大学』である」と見るべきだろう。ここからわかることは、市大は大学での教育が充実しているということだ。

#### 市大生よ、強くあれ!

大学全入時代に突入したと言われる現代で、市大がどこまで大学としての価値を発揮できるかは学生にかかっている。大学は教育機関であるため、大学がどれだけ先進的な取り組みをしても、学生が育たなければ大学の実力は低く見られてしまうだろう。就職活動の中では「大学で何をしてきたか」が必ず問われる。勉強、サークル、学生団体。たとえ一つでもいいので、胸を張って誇れることを学生時代の間にしよう。それが、ひいては大学の魅力の向上にもつながるだろう。市大をより「強い」大学にするために、市大生は「強く」あろう!

# 自転車駐輪シールを盗られたら

10月1日から大阪市立大学で始まった「自転車登録制」で発行されるシールが盗まれる事件が発生している。 半期500円を支払って手に入れたシールを自転車から剥がされた学生からは「そんな市大に失望、これどこ に言えば」と不満の声が上がっている。

登録シールの盗難は10月7日から21日の間で5件にのぼる。21日にシールを剥がされた学生(文学部1回生)は「これだけ自転車人口が多ければ誰かやられそうだな、とは思っていましたが、まさか早速自分が…という感じでした。本当にこんなことをする人がいるなんて少し残念です」とため息を漏らす。所定の手続きを経て無料で新しいシールが再発行されたが、犯人に対しては「自首しろとまでは言いませんが、手続きを面倒くさがらず、きちんと500円払って登録シールを貰ってほしい」と憤りを隠せない。

#### 盗難にあったら1号館で手続きを

シールの盗難にあったら、1号館1階の経営管理 課管財担当でその旨を申告。学籍番号と名前から 登録状況を確認した上で、新しいシールが再発行 される。手続き自体は、「自分のシール番号を覚 えていたら5分ほど、覚えていなくても20分程度」 (経営管理課管財担当)で済む。前述の学生も、 「再発行はスムーズな対応をしてくださり助かり ました」と話していた。

#### 大学の対応

他人から盗んだシールを我が物顔で自転車に 貼った者に対して、大学側はどのような対応をす るのか。担当者は「今のところ特に対策は考えて いません。しかし、盗難防止策として一度はがし たシールには『開封済』という文字が浮かび上が る工夫をおこなっており、再利用は困難です」と 話す。

#### 法学部教授の話

(本人の希望により、名前は伏せさせていただきます)

#### ―シールを剥がす行為は窃盗か?

窃盗罪の構成要件は「他人の財物の窃取」です。 つまりシールが「他人の財物」にあたるかどう か、剥がすことが他人の占有下にある他人の物を 自己の占有下におくことにあたるかどうか、ま た、その際に、所有者として利用する、あるいは 経済的用法に従って利用する、あるいは所有者と して振る舞う、そういった要件を満たしているのか どうかが問題となるでしょう。したがって、シール が窃盗罪に値するだけの実質を備えているかどう かが論点になるでしょう。

また、シールの再発行が可能なら、実質的な損害は「新たに手続をしなければならない」という 行為やそれに費やす時間になります。大学の業務を 妨害したということで、窃盗以外で何らかの罪に あたるかもしれません。

#### ―大学は犯人にどのように対処すればよいか?

まずは具体的にどのような損害があるのかを把握する必要があります。そして、対処しなければいけないことなのか、放っといていいものなのかを大学は考えなければなりません。対処はその上で行わなければなりません。

Hijicho学内報道担当班

#### 盗難にあったときの連絡先

経営管理課管財担当 06-6605-2041

#### 関連記事

大学構内での自転車駐輪が有料化に (http://hijicho.com/?p=814) 市大構内駐輪有料化を議論 (http://hijicho.com/?p=923) 夜を明かす900台の自転車

(http://hijicho.com/?p=1192)

交通違反は見逃しません 自転車取り締まり強化 (http://hijicho.com/?p=1214)

# 放置自転車対策×ホームレス支援 =HUBchari

#### ~市大生の社会起業家が大阪の2大問題に挑戦~

学情1階、ウィステリアでの昼下がり。記者が対面したその女性は、勝間和代のような志の高いバリバリのキャリアウーマン風であるよりかは、彼女自身が話す通りジブリとディズニーランドが大好きだという、うら若き乙女の風であった。彼女の名前は川口加奈。大阪市立大学経済学部3回生。彼女こそは放置自転車問題とホームレス問題とを一挙に解決するアプローチ、HUBchari (ハブチャリ)を立案し、現在、彼女が設立したホームレス支援団体「Homedoor」のもと、大阪市域への導入に向けて取り組む社会起業家である。

Hijicho Webにおいてもここ最近頻繁に取り上げる自転車問題。彼女の取り組みは果たしてそうした自転車問題への対策として有効な手立てになるだろうか。そして彼女がこの事業を精力的に行う背景には何があるのか、取材を通じて明らかにしていきたい。



写真中央=川口加奈さん

#### HUBchariとは

HUBchariの取り組みは8月の下旬には朝日新聞、毎日新聞にも大きく取り上げられ、また9月の中旬にはテレビ東京のニュース番組「ワールドビジネスサテライト」においても紹介された。大学生が起業を通じて社会問題に取り組むことが注目を引いたようだ。大手メディアも注目するHUBchariとは一体どういったアプローチなのだろうか。

#### —HUBchariとはどのようなものですか。

簡単にいえばレンタサイクルの進化版です。コミュニティサイクルと呼ぶこともできます。いくつかの拠点となるポートと呼ばれるものを用意して、そのポートから利用者が自転車を借りて、自身の目的地の近くのポートに返すという仕組みです。コミュニティサイクルというのは、もともとはパリ

のベリブというところが発祥で、現在日本でも広がりつつあります。でも大阪ではまだ行っている事例がなかったので、ホームレス支援とも絡めて私が 先陣を切ろうと思いました。

HUBchariが他のコミュニティサイクル事業と違う点としては、放置自転車を元ホームレスの生活保護受給者の方が修復して、コミュニティサイクルとして運用する点にあります。

# 一ポートにはどういったところを利用しているのですか。

他の都市だと公道をポートとして利用しているのですが、大阪市だとそれが厳しいので、「ノキサキ貢献」という言葉をキーワードにLOFTさんだとか、あとはカフェだとかの軒先を利用させてもらっています。

# ―7月初旬に実証実験を行って、大手新聞社にも取り上げられたようですが、実証実験は上手くいきましたか。

実験前は15人くらいしか想定していなかったですが、いざやってみると40人もの方が利用してくれました。正直、思っていたよりも好反応で驚きました。

#### ―そもそもなぜ自転車問題に取り組もうと思った のですか。

もとはと言えば、ホームレスの方への雇用創出 をしたいと考えていたんですね。それならおっちゃ んになじみがあって、得意な分野はなにかってとこ ろで、自転車の修理を思いつきました。それと同 時に、大阪は放置自転車も多い。だったら、この 大阪の抱える二大問題を一挙に解決出来る方法は ないものかと考えた時に、自分なりの答えが HUBchariだったのです。

# —HUBchariの中でホームレスの方々はどういった役割を果たすのですか。

自転車の修理だけでなく、HUBchariの運営もまかせていきたいと考えています。ポートの掃除、ポートごとに偏る自転車数の是正、利用者の登録の手続き、また何時何分に借りて、いつ返したとかという利用の管理などなど全般にわたって携わってもらいます。

#### ―ホームレスの方の雇用を創出しているんですね。

はい。ただ、もう一歩進んで言うと、重要な点は生活保護の出口作りです。特にHUBchariに携わってもらうホームレスの対象としては、元ホームレスの生活保護受給者、50代前半の方を想定しています。そういう方たちのために出口をしっかり確保してあげることで、現在、生活保護を受けずに路上で生活しているホームレスの方も、じゃあ俺も生保受けて自立してみようという流れを創っていけたらと思っています。また将来的にはHUBchariが大阪市の公共交通機関になっていけばいいなと考えています。そうなることでいままで街から仲間はずれにされていたホームレスの方たちが、街の中で欠かせない存在になることを願っています。

#### ―具体的には上記のホームレスの方をどのように サポートしていくつもりですか。

学生の伴走支援スタッフであるバンちゃん (※) がサポートにつきます。80~200人の生活保護受給者に対し1人のケースワーカーが伴奏支援できてないところを、バンちゃんがHUBchariの自立のためのサポートメニューを適宜選択・実施しながら、生

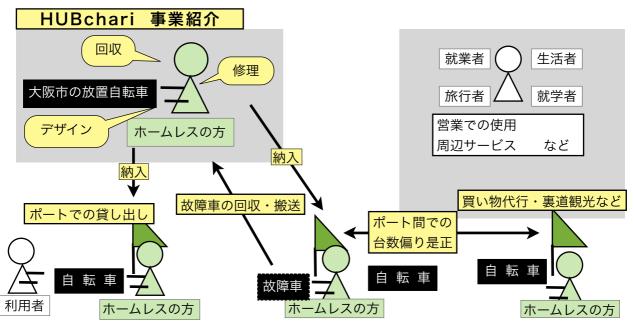
活保護脱出を目指します。ちなみに今、ホームレスのおっちゃんたちへの伴走スタッフ・バンちゃん募集しているので、もしこの記事を読んだ人の中に興味のある方があればぜひ声をかけてほしいです。(※バンちゃんの由来は、伴走(ばんそう)支援のバンと万能のバンから取ったそう)

#### ―他のホームレス支援を行っている団体との違いは どこにあると考えますか。

HUBchariを利用したい人は、自分にとって便利だから利用するって方がほとんどだと思います。でも、今までのホームレス支援は、たとえば路上の雑誌販売をホームレスの方がやって、ホームレス問題に興味があるからその雑誌を買うという人が大半という形で、ホームレス支援というのが表だって事業の第一の目的になっていたと思います。そうではなくて利用者が自分にとって便利だからという入り口から始まって、ホームレス問題、自転車問題に興味を持ってもらうという点がHUBchariの特徴だと思います。

# ―当面の目標としてどの範囲にまで広げていきたいですか?

今のところ、3年のスパンでの計画を考えています。1年目はJR環状線内の地域に広げたいと考えています。そして2年目は中崎町、堀江など若者に人気のある街、自分では特例地区と呼んでいるんですが、そうしたところに広げ、3年目には大阪市と協力して大型のポートを設置して市内全域にまで普及させることを予定しています。将来的には大阪での取り組みがモデルとなって、全国にまで広がればいいなと願っています。



#### 社会起業家 川口加奈

取材を行っていく中で、記者の関心はHUBchari から彼女自身に移っていった。そもそも彼女はな ぜこういった活動を始めるに至ったか。そのルー ツはどこにあるのだろうか。

#### ―現在の活動に至った経緯を教えてください。

最初にホームレス問題に出会ったのは14歳のときです。大阪という大都市の脇でホームレスの方を目の当たりにし、なぜ豊かな日本において、住むところもなく食うものにも困る人がいるのかと疑問を持ち、炊き出しに参加したのがホームレス問題に興味を持ったきっかけですね。それから自分に何かできることはないかと思い、同世代にむけての講演活動をはじめました。当時、若者が襲撃するという事件があったので、特に若者がホームレス問題を正しく理解することが重要だと考えためです。そうした講演活動の縁もあって高校時代には、ボランティアの親善大使としてアメリカにもわたる機会をえました。

#### ―大阪市立大学を選んだ理由はありますか。

高校時代までは講演活動など、草の根の活動が 主だったのですが、そのうちにホームレスの方の 状態をよくするのではなく、ホームレスの方を生 み出す日本の構造自体を変えたいという思いが強 くなり、その結果、ホームレス研究が日本一進ん だ大阪市立大学へ入学を決めました。

大学に入ってからはやや紆余曲折あって、自分の能力を高めなければと思い、ビジネスコンテスト、中小企業合同説明会運営、企業インターンシップなどに取り組み、校内のサークルも2年までアイセックに所属して国際会議に参加したりと、いろいろなところに顔をだしました。与えられた機会、与えられそうな機会にはすべて飛び込んでいきました。

#### - 「Homedoor」の立ち上げに至った経緯は。

一緒にやってくれる熱いメンバーとの出会いが、団体の立ち上げへと踏み出した一番大きなきっかけでした。立ち上げに際して、NEC社会起業塾 (※)、ZAQユメコラボ、SIOネットワークさんなど、他団体からの支援も大きな励みになりました。最初のうちはホームレスの方などへのモーニングサービスの提供を主に行っていたのですが、団体の主眼をどこにおいたらいいのか、いろいろ仲間と考えた結果、たどりついたのが雇用で日本の構造を変えるということでした。そして目

をつけたのが自転車だったのです。なぜならホーム レスの方にとっては、自転車というものは大変なじ み深く、修理を得意とする方が多くいらっしゃる からです。

(※NEC社会起業塾とは社会企業家の登竜門的な存在で、川口さんはその塾での最年少合格者とのこと)

# —こうした活動を行っていく上で大切なことは何だと思いますか。

いろいろあると思いますが、一つあげるならば うまく大人を活用することだと思います。やはりこうした活動を学生だけで行っていくのはなかなか 難しいです。会計、資金調達、行政への書類申請、ビラのデザインなどなど事業を行う上で専門知識を必要とする場面がいっぱいあります。そうした時に、いかにしてプロの大人に助けてもらうかというのは重要な点じゃないかと思います。なので、そう意味で大人に気に入ってもらうスキルは必要じゃないですかね(笑)



写真=川口加奈さん

#### 市大の自転車問題に寄せて

大阪という大都市を舞台に活躍する川口さん。翻って大学に視線を戻したとき、市大の抱える自転車問題は彼女の目には果たしてどう映るのだろうか。

#### 一大阪市立大学で自転車の構内駐輪有料化が導入 されました。

まずはどのような過程を経てこの制度ができたのか、決定のプロセスを透明化して欲しいですね。いきなり看板が立てかけられて、構内への駐輪が登録制になるというのは少し不親切かなと思います。なぜ自転車の登録に1000円(※)必要なのかについても説明がほしいですね。お金を払うのは学生なので。また透明化の話に関しては、自転車

の問題に限らず、去年から1号館と8号館キャンパスの一部に自動車の出入りのためのゲートができましたけど、あれもなぜ設置されたのか説明がほとんどなかったように思います。

(※今年は後期のみなので登録料は半額の500円)

あとは透明化したのちに、決定に際して学生にも一定の裁量権を持たせて欲しいと思います。学校側からの一方的な意見だけじゃなくて学生の声も取り入れた決定ならば学生の側も納得しやすいのではないですかね。また若く新しい視点を取りいれることで思わぬ解決策を思いつくこともあったり。大学の決定にかかわることで、学生としても問題に対する当事者意識が養われるとも思います。教職員、学生ともに活発に意見交換しあう、風通しのいい大学になって欲しいですね。

# 一構内に自転車があふれかえっている問題を改善するために、HUBchariの市大への応用は可能だと思いますか。

実施するとしたら学長をはじめ大学側に協力してもらう必要はありますね。構内にポートを設置したり、人員を配置したりするのにもちろん許可がいるだろうし、お金もかかりますからね。運営費はHUBchariを利用する学生から月会費を徴収する形になるでしょうね。ただ、ポートを杉本町駅やあびこ駅などに設置すればより利用するメリットが大きくなるかなと思います。将来的に私が現在展開しているHUBchariともリンクすることができればますます便利になるでしょうね。簡単ではないと思いますが、アイデアとしては面白いかなと思います。

#### ―自転車数の軽減、駐輪マナーに関する改善方法 で何かアイディアはありますか。

これもHUBchariのコンセプトと似ているんですけど、共有の自転車を増やすというのはどうでしょうか。自宅生で自転車を保有している人の内、少ない人が構内に自転車において家に帰ったりしますよね。そうしたことが自転車の総数を引き上げている一因になっているのかと思われます。共有の自転車を導入して、利用したいときに自転車を利用して、利用しないときには他の人が有効活用する。そうすることで自転車のパフォーマンスを上げつつ、自転車の数は減らせるかとは思います。

マナー改善に関してはそうですね…駐輪指定区域外の自転車を強制撤去するという声を聞きます。

ただ、その場合、大学内に半年間保管しなければいけないという法律上の問題がネックになるかと思いますが。ちなみにコンビニの前や駅前などは大学のような私有地と違って、公道なので半年間保管する義務なく、かまわず撤去されるので注意してくださいね(笑)



写真=川口さん(右から4番目)と「Homedoor」のメンバー

取材は長時間にわたったが、川口さんは快く取材に応じてくれた。記者と同じ市大生が社会人ばりに、いやそれ以上の働きをしていることを聞くにつけて感嘆するばかりであった。最後に記者が、こうした責任ある事業を率いていく上で不安はないかと尋ねたところ「これまでハブチャリに取り組む中で、本当に多くの人に協力してもらいました。もうやるしかないでしょ。」と決意を胸にした。

#### 追記

取材を行った時点では彼女が立ち上げた団体「Homedoor」はまだNPO法人申請途中であったが、10月4日、晴れてNPO法人を取得した。

徳永一雄 (Hijicho)

#### 川口加奈さんの関連サイト

ツイッター:「@KawaguchiKana」
(http://twitter.com/#!/KawaguchiKana)
ブログ「Homedoor代表 ハタチのつれづれブログ」(http://ameblo.jp/rikkaman)
「Homedoor」 HP
(http://www.homedoor0.com)
大学生 OF THE YEAR
(http://goty.jp/profile.php?id=100948)

#### 筆者へのお問い合せ

ツイッターを通して直接ご連絡ください。

# 美 味 し い お 茶 で お も て な し 茶 道 部 秋 季 茶 会 開 催

10月16日午前10時より、大阪城西の丸庭園内の茶室「豊松庵」にて、大阪市立大学茶道部利休会秋季茶会が開催された。この秋季茶会は20年以上にわたって毎年行われてきた、伝統あるお茶会だ。

#### 茶道部最大のイベント

お茶会は、大阪城で催されることが多いが、他にも大阪美術倶楽部 (2010年度)、坐摩神社 (2008年度) など違う場所で開催されることもある。この秋季茶会は、茶道部としては年間を通して最も大きいイベントで、毎年外部から約90人ものお客さんが集まる。

お茶席には、本席と副席があり、二回お茶席を 堪能することができる。当日は他大学の茶道部部 員が勉強のために来ている姿が目立った。また一 般の来場者も多く盛会の様子を見せていた。天候 にも恵まれ、お茶席から大阪城を臨むことがで き、来場者からは感嘆の声が上がっていた。



写真=茶室から臨む大阪城

お点前をした藤野共恵さん (法学部2回生) は、「今回の茶会中、お点前は4回しました。1回目は緊張しましたが、2回目からはだいぶ慣れてきて、最後にはお客様と半東さんの会話を聞いて楽しむ余裕もありました」と話す。

普段の稽古で気を付けている点を聞いてみたところ、「お道具を丁寧に扱うことです。日常生活で物を扱うときも意識できるようになりたいです」と語った。お茶の心構えは日常生活にまで昇

華させられる。出来映えを尋ねると、「80点くらい。お稽古の成果が出せました。完璧とは言えませんが、大きなミスもなくこなせたと思います」。今後の目標は「個人的にはお点前の上達だけでなく、茶道についての色々な知識を身につけたいです。あと、茶道部全体で今の和やかな雰囲気を保ちつつ楽しく練習していきたいです」という。



写真=お点前をする藤野さん (右) と 半東を務める高田さくらさん (左) (文学部4回生)

#### お茶が好き。お菓子が好き。

また、今年茶道部に入部し、初めての秋季茶会に臨んだ山元里佳さん(文学部1回生)にも話を聞いた。山元さんは、お客さんを茶室まで誘導する案内係を務めたり、水屋(準備などをする裏の部屋)でお茶の点て出しをしてお茶やお菓子を来場者のもとに運ぶ役割を担ったりしていた。

「お茶会を開く立場になったのは今回が初めてです。当日までは不安だらけだったのですが、先輩や同回生の子に助けてもらい、ほどよい緊張で楽しくできました。また、多くのお客さんがきてくださったので嬉しかったです。来てくださった方が楽しめていただけたなら、なお良かったと思います」と当日の思いを語ってくれた。「練習は一週間あたり前から毎日のようにしていて、先輩や先生から指導してもらい、たくさん練習してきたと思っ

ていましたが、実際はミスばかりしてしまいました。一年に一度の大きなお茶会だったので、もっと練習しておけばよかったと思います。また、部室はお茶室と形が全然ちがうので、部室の練習では気づかなかった点がわかったので今後に役立てたいと思います」と振り返る。

「次は先輩の追い出し茶会があるので、先輩たちに最後のお茶会で気持ちよく卒業してもらえるよう頑張ります!」と意気込みを新たにする。茶道は好きですか?との質問に対して「お茶も和菓子も大好きです。まだ始めたばかりで知らないことばかりなのですが、知識を深めて、きれいな作法を学びたいです。また、茶道では日本人ならではのマナーを学べるのも魅力です」と山元さんは語る。期待の若手部員である。

#### 笑顔を絶やさず

前部長 (秋季茶会当時の部長) の石田春菜さん (文学部3回生) は、「準備期間中に苦労した点は、人数の調整ですね。上回生の人数が少なかったので、割と大きめな仕事を1回生に任せてしまうことになり、どうしようかと思ったのですが、みんな優秀だったので、当日はそこまで問題なく進みました。院生の方や4回生の方にも手伝って頂いて乗り切りました。あとは新入生の練習ですね。時間が合わず、なかなか揃わなかったのですが、自主練の回数を増やして対応していきました」と当日までの苦労を語った。

当日の様子について尋ねたところ、「一大イベントなので、もちろん緊張もしたのですが、やはり普段の練習では体験出来ないことをするので、色んなことを吸収しよう!と思って当日を迎えましたね。あと、出来るだけ笑顔を絶さないように心掛けていました。笑顔の伝染を目論んでいましたね」と笑顔で語る。

「お待たせする時間が長かった方もいらっしゃったのですが、その相手をしてくれる係の子がうまく立ち回ってくれて、点前やお菓子に関しても『良かった』と言って下さるお客さんがいらっしゃったと聞いています。当日は晴れたので、大阪城の景色やお庭に関して誉めて下さる方もいらっしゃいましたね。準備不足、また当日の人手不足などで100%満足がいったとは言えません。でも、全員がそれぞれの仕事を全うし、貴重な経験をすることで成長出来た点では良かったのではないかと思います。今年うまくいかなかったところは、来年に繋げていって欲しいですね」と後輩に期待を寄せる。

#### 深淵なる、茶道の魅力

山元さんは、「茶道では日本人ならではのマナーを学べるのも魅力です」という。また石田さんは、「茶会は、日頃の練習の成果を発揮すると共に、自分を大きく成長させる場だと思っています。お点前ももちろんなのですが、学生のお点前は、全く完成されたものではないので、例えばお茶に精通された方から知識を授けて頂いたり、他大学で同じようにお茶を習っている方との会話から何か共通点を見つけたり、どうすればお客さんに楽しんでもらえる場を作れるか考えたり……そういう『お茶とお菓子を頂く』以外の部分を学ぶ、絶好の場だと思います」と、お茶会に対する思いを語ってくれた。

「茶道」と聞くとおしとやかなイメージがあるが、茶道部員は各々が茶道に対する熱い思い、学ぶ意欲を持って、週2回のお稽古やお茶会の準備に勤しんでいる。来年の10月半ばには、再び秋季茶会が催される予定だ。興味のある方は、是非行ってみてはいかがだろうか。

長澤彩香 (Hijicho)

# Hijicho Radio 配信開始 iTunes Storeでも

Hijichoは10月13日、「Hijicho Radio」の配信を開始しました。毎週月曜日にHijichoのスタッフがテーマに沿ってトークを繰り広げます。Apple社の「iTunes Store」でも番組を公開しており、お手持ちのiPodやiPhoneでも聴くことができます。

#### Hijicho Radio

(http://hijicho.com/radio)

iTunes Store の番組ページ

(http://itunes.apple.com/jp/podcast/hijicho-radio/id472889641)



# 留学生交流会「らんらん♪ラウンド」開催

Hijichoは10/19(水)17時半より、第1学生ホール2階オアシスにて留学生交流会「らんらん♪ラウンド」を開催した。このイベントには、日本人市大生と留学生と合わせて63人が参加した。

#### 国際交流の場として

日本人の皆さんには普段、留学生と交流する機会があるだろうか。筆者は市大に入って半年になるが、今までそのような機会はほとんどなかった。しかし、日本人学生の中には、他国から来ている留学生と話したり遊んだりして交流したいと思う人も少なからずいるだろう。留学生たちも、せっかく日本に留学したからには、日本人や他の留学生と仲良くなりたいと思う人もいるはずだ。このイベントはそのような人たちに、日本人市大生と留学生が交流する機会を提供するために企画した。

#### 深まったつながり

参加者らは5~6人の合計10個のチームに分かれ、ゲームやおしゃべりを楽しんだ。ゲームはチーム対抗で「人間知恵の輪」や連想ゲームなどを行った。メンバーで協力したり知恵を出し合ったりして、仲を深めることができた様子だった。





写真=体を使ったゲームも 写真=連想ゲーム中の様子

参加者全体では、「なんでもバスケット」を 行った。参加者の中には初めてこのゲームをした 人もいたようだが、空いた席を全速力で奪いに 行ったり、2回連続鬼になる人がいたりと、参加者 は大いに盛り上がった。



写真=全力で席を奪い合う参加者たち

司会者側から出されたテーマに沿っておしゃべりをする時間も。「日本の料理」と「国際恋愛」という2つテーマが用意された。「日本の料理」という話の中では、お好み焼きやたこ焼きなどの大阪の名物や、寿司の美味しさなどが話題にのぼった。また韓国からの留学生の話では、「日本のキムチは甘い。韓国のキムチの方がおいしい」といった意見も。



写真=グループに分かれ、おしゃべりを楽しむ

会が終了した後には、グループのメンバー同士だけでなく他の参加者ともメールアドレスの交換を行ったり、facebookで繋がったりと、日本人学生と留学生の交流は深まった。その後大学近辺で行った有志の食事会では、他のチームの参加者と「また一緒に食事に行こう」と約束をする参加者の姿もあり、終始和やかな雰囲気だった。

#### 今後も継続的に

今回「らんらん♪ラウンド」を開催するにあたり、留学生会や中国人留学生会、オリオン寮など、多くの方に協力していただいた。次回の開催時期は未定だが、「らんらん♪ラウンド」はこれからも定期的に開催する予定だ。外国人と交流したい方はもちろん、新しい友達を増やしたい方、日本人学生・留学生問わず市大内の学生ともっと仲良くなりたい方は、是非次の機会に参加してほしい。

中野美希 (Hijicho)

# 2012年度の海外大学派遣学生募集 独・露

研究支援課は10月17日、2012年度の海外大学への派遣学生募集要領を発表した。行き先はドイツのハンブルグ大学とロシアのサンクト・ペテルブルグ大学。コースによって学費や航空券の助成が受けられる。必要書類等の詳細は、大学公式サイトまたは研究支援課 (06-6605-3557) まで。

#### 共通の応募資格

- 1. 外国人留学生を除く、学部学生および大学院生
- 2. 長期派遣の場合、原則派遣先の言語を1年以上 学習した証明書を提出する
- 3. 長期派遣の場合、往復航空運賃・滞在費・生 活費・海外旅行傷害保険を負担できる
- 4. 心身ともに健康で、言語・文化・食生活の違いにより生じるストレスに対応できる
- 5. 最終合格後、別途実施するオリエンテーションに出席できる

#### ハンブルグ大学 (ドイツ) 長期派遣

2012年4月もしくは9月から1年以内の間、若干名派遣される。大阪市立大学への学費納入をもってハンブルグ大学での学費は免除される。応募は11月15日(火)までで、必要書類をそろえて国際センター(1号館1階)に提出して完了する。書類選考合格後、面接による選考が行われる。

(http://www.osaka-cu.ac.jp/news/20111017161625/campus.html)

#### サンクト・ペテルブルグ大学(ロシア)長期派遣

2012年9月から1年以内の間、若干名派遣される。 大阪市立大学への学費納入をもってハンブルグ 大学での学費は免除される。応募は11月15日 (火) までで、必要書類をそろえて国際センター (1号館1階) に提出して完了する。書類選考合格 後、面接による選考が行われる。

(http://www.osaka-cu.ac.jp/news/20111017151114/campus.html)

#### サンクト・ペテルブルグ大学(ロシア)短期派遣

2012年9月に1ヶ月間、4名派遣される。原則としてロシア語基礎1・2を履修したかそれ相当のロシア語の基礎力が必要だが、ロシア語を未習でも2012年4月からロシア語基礎1・2を履修または聴講することで選考に参加可能。渡航時の往復航空運賃をは大学側が助成するが滞在費は自己負担。宿舎はサンクト・ペテルブルグ大学が提供。応募は12月22日(木)までで、必要書類をそろえて国際センター(1号館1階)に提出して完了する。書類選考合格後、面接による選考が行われる

(http://www.osaka-cu.ac.jp/news/20111017144819/campus.html)

加賀友基 (Hijicho)

# Hijicho Webが携帯電話に対応

10月22日から、いわゆる「ガラケー」でもHijicho のウェブサイトを閲覧できるようになりました。

対応したのはニュースサイト「Hijicho Web」およびスタッフブログ「Hijicho Blog」の2サイトで、各端末に最適化された状態で表示されます。ネットラジオ配信サイト「Hijicho Radio」には対応していません。

これまで「Hijicho Web」はいわゆる「ガラケー」に対応しておらず、全アクセスのうちパソコンが79%、スマートフォンが21%で、いわゆる「ガラケー」は1%未満でした。



携帯電話のバーコードリーダーで読み取ってください

# 我ら "国境なきナベ団"

我々には鍋を囲む権利がある一。10月5日、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにて「青空鍋」が決行された。

#### 「青空鍋します」

10月2日、筆者のTwitterアカウントがあるユーザーにフォローされた。アカウント名は「青空コタツ団with国境なきナベ団 (@kotatsudan)」。プロフィールには「10月5日(水)16時~、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスで青空鍋をします」とあった。「何だこれは」と思いつつ、とりあえず行ってみることにした。筆者が大阪府立大学中百舌鳥キャンパスに到着した時には、すでに10人以上の若者が、屋外で鍋とコタツを囲んでいた。

筆者が鍋に加わって少ししてから、自己紹介が始まったが、そこには実に多様な人々がいた。府大生、阪大生、京大生、同志社大生が参加しており、なんと上智大生も参加していた。中には社会人の姿も。途中参加者も続々と現れ、府大の教授なども覗きに来るなど、最終的な参加者は、延べ30人以上となった。



写真=青空鍋の参加者 (近藤写す)

#### 国境なきナベ団

一体どういう経緯で青空鍋を開催したのか、主催者に話を聞いた。今回の主催は「青空コタツ団」で、開催の理由は、全国各地の大学で進行するキャンパス利用規制強化(集会規制、飲酒規制、BBQ規制、立て看規制など)の流れに対する危機意識からおこなったものだそうだ。開催には協力者がいたらしい。その協力者の名は「国境なきナベ団東京(@nabedann)」。主に関東で青空鍋などを行っている団体だ。今回は「ナベ団」の方が大阪に来るということで、「コタツ団」を名乗り、府大での青空鍋をしようと思ったということだ。

「国境なきナベ団」とはどういう団体なのか。 「ナベ団」の結成は実に2010年の11月15日に遡 る。きっかけは、自宅の近所に高層マンションが 建設される時とのこと。建設反対を訴えたがなか なか聞き入られず、座り込みを行おうとしたらしい。しかし、「ただ座り込みをしても面白くないな」と思い「鍋でもするか」と近所の住人たちとともに、工事現場で青空鍋を決行した。この時の青空鍋が思いのほか楽しかったらしく、「青空鍋っていいんじゃない?」と感じ、それからは頻繁に青空鍋をするようになった。

青空鍋をする際には、何でも良いからテーマを 決めているらしい。今回の府大鍋のテーマは 「iPhone5発表記念!」。参加者の中にはiPhone5 について語りに来たという方もおり、「なんで iPhone5発売せぇへんねん!」と初対面の筆者に熱 く語ってくれた。ただ、時には真面目な(?)話も した。格差社会、労働問題、ホームレス問題—。 近年の学生デモについても話題が及んだ。「ナベ 団」の1人は「『ちょっとカラオケ行く?』のノリ で『ちょっとデモ行く?』というのが出来る世の 中が良いよね」と話す。

#### 鍋、それは究極の料理

今回はTwitterやFacebookで参加者を募っており、 初対面同士という人が多く、さながらオフ会のよう だった。最初は会話もぎこちなく進んだが、ひとた び鍋を食べ始めると様々な話題で会話が弾んだ。開 始から2時間もすると、緊張が解けたのか昔から の友達のような感覚で会話をするようになった。 もしかしたら鍋というのは、日本人が編み出した究極 のコミュニケーションツールではないのだろうか。

「青空コタツ団with国境なきナベ団」は現在 「浪速青空コタツ団 (@kotatsudan)」と名称を変 更している。今後も、規制強化への抵抗、学生文 化の向上、学生間交流を理念に活動を続けるそう だ。今回の府大鍋では新たに団員が加入した。団 員や協力者はいつでも歓迎している。

「同じ釜の飯」ならぬ「同じ鍋の飯」を食べた仲間というのは、もしかしたら一生の仲間になるかもしれない。「国境なきナベ団」の1人は「これからの季節、鍋を食べるなら室内に閉じこもらずに青空の下で鍋を囲んでみては」と話す。

近藤龍志 (Hijicho)

#### 連絡先

浪速青空コタツ団 (@kotatsudan) (http://twitter.com/kotatsudan) 国境なきナベ団東京 (@nabedann) (http://twitter.com/nabedann) 15 **Hijicho 市大新聞** 第6号 2011年11月7日

# コラム・日本 vol.2 本と向き合う

皆さんはそろそろ後期の授業にも慣れてきただろうか。学期初め恒例の「教科書販売」、そこで買った教科書とともに授業に臨んでいることと思う。生協の組合証を提示すれば、一割引で教科書を買うことができるというのはもちろんご存知の通りだろう。だがちょっと待って欲しい。「本来、本は定価で販売されているのに、なぜ割引されているの?」という疑問を抱いたことがある人もいるのではないだろうか。今回のコラム日本では、この疑問を端緒として、我が国の本の販売システムと向き合っていこう。

#### なぜ本は定価で販売されているのか?

あなたが普段購入する本、その値段はどこの書店で買っても同じである。これには著作物の「再販売価格維持制度(以下、再販制度)」がはたらいているからだ。著作物の「再販制度」とは、出版社が書籍・雑誌の定価を決定し、小売書店等で定価販売ができる制度のことだ。例えば、出版社がある本を1000円で売ると決定したら、書店はその本を必ず1000円で売らなければならない。本来、商品の供給者が、その商品の取引先である事業者に対して転売する価格を指示し、これを遵守させる行為を内容とする契約である「再販売価格維持契約(以下、再販契約)」は、公正な競争を制限するものとして原則として独占禁止法によって禁止されている。だが、公正取引委員会が指定する商品(書籍・雑誌、新聞など)については、再販契約は適法と認められているのだ。

#### 教科書が割り引かれるのはなぜ?

それではなぜ「教科書販売」では、教科書を1割引で買うことができるのか。独占禁止法第23条5項では、共済組合や生活協同組合は再販契約を遵守する義務を負わないと規定されている。「教科書販売」の販売主体は大阪市立大学生活協同組合だ。そのため我々は割引の恩恵を受けることができるのだ。他大学の生協でも、書籍の1割引は一般的となっている。専門書となると、一般的な書籍に比べて割高である。その上での1割引は、やはり魅力的だろう。

#### 再販制度と向き合う

これまで「再販制度」を巡って、廃止すべきか存続 すべきか、多くの議論がなされてきた。普通に考えれ ば「再販制度」は、一定の卸売価格や小売価格を メーカーが問屋や小売店に守らせ、問屋や小売が自 由に価格を設定できないようし、小売間の競争を抑 制することになるから、消費者利益を阻害する。

しかし一部では、再販制度には維持すべき合理的 理由があると主張する声もある。例えば「社団法人 日本書籍出版協会」は以下のように再販制度を肯定 する。出版物には、個々の出版物が他にとってかわ ることのできない内容をもち、種類がきわめて多 く、新刊発行点数も膨大といったように商品と著し く異なるという特性がある。このような特性をもつ 出版物を読者に届ける最良の方法は、書店での陳列 販売であり、再販制度によって価格が安定しているか らこそ、それが可能になる。もし再販制度を撤廃し たら、本の種類が少なくなり、本の内容が偏り、価格が高くなり、遠隔地は都市部より本の価格が上昇し、町の書店が減る、という事態になり、読者が不利益を 受けることになる。

確かに価格競争に陥ると、書店が仕入れる出版物は多くの販売を見込めるものが中心となる一方、売れない本は高くなってますます売れなくなり、専門書や個性的な出版物を仕入れる書店が減少すると考えられる。そして売れさえすれば良いというような、くだらない本が溢れ、日本の書物文化が破壊される恐れもある。

ただ、昨今の出版状況を見るに、現状の制度をあり のまま維持するだけという意味での「再販制度」擁護 論は受け入れがたいと言える。我が国では1997年以 降、出版産業の市場規模は年々縮小しており、いわゆ る「出版不況」の状況だ。ここ10年で大型書店の進出 が進んで来た中で、ランキングに依存するような状況 がどんどん酷くなってきている。そして、書店の数は 年々減少している。しかし、その一方で書店の総売場 面積は増加している。インターネット書店や、全国の 都市部に進出する大型書店に対して、小規模の書店は 苦戦を強いられているのだ。つまり再販制度を維持し ていても、再販制度を廃止した場合に考えられるよう な状況が、現在の出版業界には生じているのだ。だか らこそ、書店には再販制度を廃止しようが維持しよう が、その枠組の中で変革を起こすことが求められる。 インターネット書店や大型書店に対して競争面で不利 と考えられる小型書店でも、地域読者のニーズに沿っ た本の仕入能力を備えたり、多様な書店ビジネスを提 供すれば生き残る道は開けるのではないだろうか。そ の上で、どうしても書物文化の破壊が防げないという のなら、再販制度という点からではなく、別の切り口 から小型書店の維持や書物文化の保護に取り組んでい くべきである。

#### まとめ

キケロは言った、「書物なき部屋は、心魂なき肉体の如し」。書物文化が滅びる国には、いったいどんな未来が待ち受けているのだろうか。本は、様々な点で知識の根源である。文化を形成する上で決して滅んではならない存在だ。我が国の書物文化を守るためには、再販制度の維持か廃止かといった二者択一的な議論から脱却し、効果的な販売制度や販売方法を検討していくことが重要ではないだろうか。我が国の書物文化の行く末が、問われている。

鶴木貴詩 (Hijicho)

# 震災から半年経って

メディアリテラシーをお話する人は口を揃えてこう言う。メディアが送り出す情報は、現実そのものではなく、送り手の観点からとらえられたものの見方のひとつにすぎない。事実を切り取るためには主観が必要であり、また、何かを伝えるということは、裏返せば何かを伝えないということでもある。Hijichoはメディア団体であるため、何を報道し、何を報道しないのか、この議論は重要だ。震災の復興支援のための報道を行ってきたHijichoを振り返り、今後の震災に関する報道について少し考えてみたい。

#### 震災時期に誕生したHijicho

市大メディア団体Hijichoが動き出したのが2月27日。Hijichoのアイデアがおよそ具現化したスタートアップの時期だ。東日本大震災が発生したのが3月11日。Hijicho市大新聞の4月号 (創刊号)の記事の構想を練っていた頃だ。著者は3月29日から1週間被災地入りし現場の生々しい様子を体感した。この経験は現在のHijichoに影響を与えている。Hijichoの団体理念は『つながりの創出による地域活性化』であるが、この理念を掲げるに至ったのも今回の震災が関与していることは確かだ。またメディア団体としての役割やボランティアのあり方を考えるきっかけにもなった。

#### メディア団体としての責務

被災地復興支援の議論が各所でなされる中、 Hijichoは、市大新聞、Web、Twitterなどの媒体 を用いて広報面でサポートを行った。募金活動等 の支援活動は一元化して行った方が効率的だから だ。当時は有志団体の乱立が懸念されていたが、 大学のボランティアセンターが中心となり活動が 行われた。そんな中、募金をする方法などの情報 を流通させるのがメディア団体Hijichoの専門的な 役割だった。広報を担当する団体、実際に募金を 呼びかける団体、責任をとる団体、それぞれが担 うべき役割を認識してうまく連携がとれていた。 この時期はみんな衝動的にいわゆるボランティア 活動を行っていたのだ。ボランティアをしようと いう思いよりも前に、何かしなくてはという気持 ちが衝動的にこみ上げてきた結果、それが結果的 にボランティアだったということである。このエ ネルギーを常に発揮できるように、すなわち意識 の風化を防ぐために広報活動は継続して行われる べきである。ぜひともHijichoはメディア団体とし ての責任を今後も果たしていきたいと思う。

#### 地域とのつながり創り

ボランティアの話になると地域とのつながりの 重要性が指摘される。災害に見舞われた時、日頃 から住民が顔見知りの関係でいたら、お互いに助 け合い、救助やその後の生活が円滑になるから だ。被災地に実際に行って活動することもすばらし いことだが、現地の方、もしくはもう少し近隣の 方がその責務を負ったほうが、時間や費用などコ ストパフォーマンスがいい。むしろ遠く大阪で生 活をする私たちはこれを機に、自らの生活地域の 見直しを検討するほうが重要だと思う。

#### ちょっとずつ、地域学

地域とのつながり創りといっても具体的に何を したらよいのか。その疑問に対してHijichoは今年 の6月に『震災を考えて大学と地域をつなげる フォーラムディスカッション』というイベントを大 阪市立大学生活科学部と共に開催した。様々な立 場の方が一堂に集結し、どのような地域交流がで きるか実際に案を出し合おうという企画だ。ここ で出た案はその後に多少形は変われど実現された。 例えば、浅香で行われているお祭りへの市大生の 参画や、プロバスケットボールチーム「大阪エ ヴェッサ」とHijichoのコラボレーションなどだ。 最近では、住吉区長の仲立ちで『地域学』の勉強 会がHijicho内で行われ、地域報道のよりいっそう の飛躍を期待していただいた。Hijichoは是非とも 期待に応えたいと意気込んでいる。今後、地域の 情報をより豊富に広報していくつもりだ。

#### ボランティアの広報についての話

大学当局はこれまで3回にわたって被災地支援のボランティア派遣を行ってきた。11月3日にはその報告会が企画されている。しかし、あまり気が進まない。関係者の中からいくらか不満の声を聞くことができた。そう感じるのは、どうしても当局に利用されている感じがするからだろう。

当局ははじめから報告会のために学生を派遣している。大阪市立大学と明記されたビブス着用の強要や観光記念のような写真撮影。その行動に関しては特別声を大きくして批判することでもないが、当局の態度に関して疑問をもつ学生も多く存在するという事実を報道しておく意義はあるだろう。この事態に対してどのような問題が生じてくるだろうか。

1つは、ボランティアに参加した学生が不快な想 いをするということ。もう1つは、市大生として恥 ずかしい、市大を誇れない、と市大生が感じてしま う可能性があるということだ。ボランティアをす る目的を当局に決められてはたまらないだろう。 ボランティアを送り出す機関はボランティアの広 報をしないほうがいいのではないかと思う。当局 は外部のボランティア団体や支援団体の窓口的な 役割を粛々とこなすだけでよい。ボランティアの 人数を増やそうと画策する必要はない。あれこれ 在り方を議論したりするのは専門家や当事者の役 割であって、当局は自分の意見を言わないほうが よい。大学の名前を背負っているとだめだ。どう しても大学の株を上げるための広報をしてしまう。 (いやそれは結構なのだが、そのことが目的化して しまっている。) なので、例えば報告会をするなら ば、報告したい事柄や思いがある人がそれを企画 するべきだ。そして広報は、当局とは直接関係の ない広報の専門機関がやったほうがよいと私は考 えている。

#### 現地での活動

3月は現地の方々も、ボランティアで来ている学生もピリピリとしていた。私はそこで避難所のニーズのアセスメントをしていたのだが、避難所の状況や被災現場を生で目の当たりにした時は言葉が出なかった。一瞬たりとも気が抜けない。無論そんな現場でばか騒ぎなどはできず、そこで出逢った仲間と記念撮影をするという事は考えにも浮かばない。

私は夏にもう一度被災地を訪れた。大小さまざまなボランティアが参入しており、中でも学生ボランティアが目立った。そこで感じたことは緊張感の違いだ。ボランティアの受け入れ側の意識と目的はあまり変わっていないが、する側の意識と目的はすでに変化している。衝動的に奉仕活動をしたくてたまらないからボランティアをするのではなく、例えば、なんとなくすごいと思うからだったり、貴重な経験としてだったり、楽しそうだからだったり、と随分緊張感がなくなってきて

いる。由々しき事態だと考える人もいるだろうが、これはそれだけ落ち着いて支援活動に目を向けられているということでもあるのだろう。実際、私も夏に再び訪問した動機は衝動的ではなく3月と比べて被災地の雰囲気がどうなっているだろうという興味だったし、ボランティアをしにいこうという気持ちよりも、目的はその興味の実行だった。落ち着いて現場の検証ができたし、今後個人として、またHijichoという組織として何をするべきかについての思考の整理ができた。その答えが、自分の生活する地域と向き合うことだ。しかし、ボランティアをしなければという強い気持ちをもたずして夏の再訪問をしたことについて、現地の方々に対する申し訳ない気持ちも沸き上がってくる。

被災地の受け入れ側が多様であれば、ボランティアをする側も多様だ。当然ミスマッチも起こる。しかし、それは少ない方がよい。そして思うことは、遠い被災地支援のボランティアは、やはりなるべく衝動的に行われるべきであるということ。また、今ある生活、生活エリアである地域、これを再検証し、つながりをいっそう強化していくことが、とりわけ衝動的でなくとも、どんな人にでも当てはまる大切なことなのだろう。

中野寛之 (Hijicho)

#### 関連記事

2011年4月1日日「2週間で38万円 震災支援募金、市大VC中心で」http://hijicho.com/?p=49 2011年4月9日「震災後の取り組みを聞く」http://hijicho.com/?p=85 2011年4月28日「ボランティア活動に事前届出制度」http://hijicho.com/?p=99 2011年7月2日「フォーラムディスカッション開催」http://hijicho.com/?p=205 2011年10月5日「大学×地域~Hijicho×大阪エヴェッサ」http://hijicho.com/?p=1920 2011年11月7日「人のつながりが創り出す あさかで祭り開催」▶18面

### 人のつながりが創り出す あさかで祭り開催

10月9日(日)に浅香中央公園であさかで祭りが開催された。当日は晴天に恵まれ、バザーやステージ企画には多くの来場者が訪れた。また午後には、平松邦夫大阪市長も会場に駆けつけ、大きな賑わいに包まれた。

#### 顔でつながる地域性

あさかで祭り終了後、実行委員長を務めた木村 雅一さんにお話を伺った。



写真=あさかで祭り実行委員長の木村雅一さん

#### 一今回で11回目を迎えたあさかで祭りを終えた感 想を聞かせてください。

正直なところ、10年以上続くとは思っていなかったですね。逆に言えば、年に一回この時期にするというのがみんなの楽しみになってくれているみたいで。参加者はお子さんを含めてだいぶ来てくれるようになっています。それはそれで嬉しいですが、だんだんと準備する人が減ってきているのは、少々きついです…。

来年も恐らく開催すると思いますが、あれこれ するよりは、続いていくことが大事だと考えてい ます。10年ほど昔には、8月15、16日に盆踊りが ありました。15日は夜2時まで、16日には4時まで やっていたんです。これもそうやけど、結局お祭り は、準備する人、お金、来てくれる人が必要で す。それがだんだん減ってくる。来てくれる人や 準備する人がいなくなるとお金が集まらなくな る。お金が集まるというのは、人と人が顔でつな がっている関係だということに言い換えられると 思います。あさかで祭りは、10年間で培ったつな がりをこれからも続けていけるのか。祭りも含 め、昔から続いているものとは、人のつながりが 結果的に形となったもの。そういう意味で、昨今 は人のつながりが弱くなっていると思います。そ の一方で、今回のように新しく学生さんが来てく れて、また新しい層も増えていく、入れ替わって いくということもあるんやけどね。

# 一あさかで祭りを行うようになった経緯を教えてください。

保育所に小さい子らをもっている親たちが、盆 踊りがぼちぼちなくなってくるし、何かしたいと いうことが最初のきっかけですね。ある意味で人 がつながっているというのは、縦割りで繋がってい るからよい面もあります。しかしもう一方で、若い 者の方が不利、自分たちが何かしたいとしても、 ああやこうやと言われて結局できなくなることも あります。そんなこともあって、自分らで好きなよ うに祭りをしようというのが始まりです。最初は1 人でも構わない。誰か一人が言い出して、この指止 まれで、あとはその人の気持ちやつながりで、指が つながっていく。1年目にそれで始まったら、「去 年やったから今年もやれへんの?」ということに なって続いていく。そもそも言いだしつペがいない と物事は始まらないものです。やりたいという人が 一人でもいて、その人がやりたいという気持ちを 言葉にしたから始まったんですね。そして、それを 聞いた人間が「ああしよう、こうしよう」と。浅 香は今まで様々な経験があるから、案外イベント をやると言ったらなんとかなるんですよ (笑)

#### **一あさかで祭りの魅力は?**

やっぱり浅香という地域があって、じいちゃん、親、子供といったように、様々な人がつながっているという地域性だと思います。昔はたくさんの人が暮らしていたけど、最近は若い人が出て行ってしまいがちです。そんな現代だからこそ、日頃仕事だから同じ所に住んでいても会わない人が集まって、顔を合わせて「久しぶりやね」と言えるのは地域性やと思います。

#### 地域全体がキャンパス

#### 一地域の方々から見て、市大生の印象は?

昔はお客さんで同和の問題を勉強しなければならないからなど、何かのために来るという感じでした。それに加えて、浅香公園の辺りは車庫だったこともあって、こっちに来ることがほとんどなかったけれども、今は、あさかで祭りも来てくれる。その辺でもカップルが歩いているし、近辺にも普通に学生がいる。昔みたいに気負わなくても、今は学生がいることが当たり前になっています。お互い自由に行き来できるようになって垣根が低くなりました。地域との関わり方なんて自然でいい。行かなけれ

ばならないから、何かしなければならないから、 同和の問題を勉強しなければならないから、とい うことではなく、「行きたいから行く」というの が一番大事な感覚です。

一時、「学校公園」という話があったんです。 小学校や中学校というのは地域にあるものだから、学校の塀を取っ払って、地域の人が出入りできるようにするという考え方です。しかし今は事件などが多いこともあって、インターホンを押さなければ入れない。せっかく縁があって市大に来たのだから、広い意味でここも大学のキャンパスの一つであると考えて、市大の中だけでなく近辺で生活したり遊んだりということになれば、街そのものに活気が出ます。杉本町は学生街ですが、近大の長瀬のような学生街ではありません。地域全体がキャンパスであり、生活の一部として浅香や住吉区を考えてくれたらと思います。

#### ぼちぼち行こうや

最後に次のような言葉をいただいた。

「無理しても続かない。自分の気持ちを隠してまで何かできないし、せねばならないでは続かない。よく言うけれど『思いを言葉に、言葉を形に』するのは大切なこと。100個口にしても100個できるわけではない。100個のうち10や20でも形になれば次に進める。頑張らんでいい。頑張ろうと思ってもしんどいからぼちぼちいけばいい。ぼちぼちいかなければ続かへん。頑張って頑張っても、どっかで糸が切れてしまったら止まってしまう。自発性を大切にして、ぼちぼちいくことがつながりを構築して持続させるんや」

#### たくさんの小さな接点を持とう

あさかで祭りの目玉であるステージ企画。そのステージのトップバッターを飾ったのが、地域で活動されている浅香太鼓集団「獅子」による和太鼓演奏だ。「獅子」のリーダーを務めておられる松江寿士さんにお話を伺った。



写真=浅香太鼓集団「獅子」リーダーの松江寿士さん

### 一今回のあさかで祭りを終えた感想を聞かせてください

毎年参加していますが、年々"行っている意味"が深まっているように感じます。それはとてもいいことだと思います。祭りに向けて一生懸命準備ができたし、楽しみながらできたことが何よりもよかったですね。楽しみながら皆で作り上げるという、その過程がこのお祭りの魅力のひとつです。また、今年来場した人が来年以降も、ステージや模擬店に「参加したい」という人が増えたらいいですね。またこの1年をかけて、少しづつ声かけをしていきたいです。

#### **一太鼓集団「獅子」とはどういった団体なのですか?**

毎週土曜日に市大のすぐ南にある市民交流センターすみよし南で練習をしています。この団体は1988年に結成されました。この年の御堂筋線車庫の「跡地まつり」で先輩が太鼓演奏をしていました。これがきっかけで地域の方が子どもに何か胸を張ってできることはないか?と考えた際に、太鼓集団を作ったらいいという話が出て今に至ります。メンバーは、浅香に住んでいる人、在日朝鮮人の人、留学生、反差別に共感している人など多様です。太鼓の演奏の他にも人権啓発もしています。子どもに『差別しない大人』になってほしいからです。具体的な活動は、小中学校に行って演奏の後に人権のお話をしたりしています。

#### 一市大生に地域とどう関わってほしいと考えていま すか?

何をしてほしいというのはないけれども、何か ニーズがあったり、今後出てて来たりしたときにス ムーズにつながりができるようにしておいたいし、 つなげたい。小さな接点をたくさん持っておくこ とが大切だと思います。

#### 誰もが楽しめる作品を

また市大からも、美術部青桃会とアカペラサークルAccordがステージに出演した。ステージ終了後、彼らにもお話を伺った。





写真=美術部青桃会の皆さん(左)と完成した作品(右)

# ーなぜ参加を決めたのですか?また、このステージに臨むにあたっての意気込みを教えて下さい

青桃会:普段は若者向けの作品を作ることが多いのですが、今回はお客さんにお年寄りの方が多いということを事前に伺っていたので、それらの方々にも楽しめる作品を作る良い機会だと思いました。とにかくわかりやすく!を目標にしていました。

Accord: 昨年出演させていただいてぜひ今年も!という気持ちで参加を決めました。今年は2回生2人、1回生3人の「sp-loud」というできたてホヤホヤのバンドで参加させていただいたので、場数を踏むをいう意味でも出演して良かったと思います。

### -1回生初のライブアートということですが、どうでしたか?

青桃会:とても楽しかったです。塗ろうとすると前の順番の人がまだ塗り終わっていないなど、練習にはなかったようなハプニングもありましたが、臨機応変に対応できたと思います。

#### 一曲の選定について何か意識したことはありますか?

Accord:ゴスペラーズのカバー曲を演奏しましたが、お祭りということで幅広い人をターゲットにした曲を選びました。「ウィスキーがお好きでしょ♪」のようなCMなどでおなじみの曲ですね。



写真=アカペラサークルAccordの皆さん

# 一このような地域の祭りに出演することについて、どのように考えていますか?

青桃会:この夏に、西成の商店街でアート活動をしました。こういった地域でのお祭りに参加していくことは、お互いに交流が深まって良いと思います。今後もぜひ参加していきたいです。

Accord:ボランティア活動の中で交流する機会を持っています。例えば、老人ホームに行って演奏させてもらったり。Jリーグのような地域密着の活動は素敵だと思います。Accord自体もまだ8年目のサークルなので、これからどんどん成長していきたいですね。

#### 地域のつながり創りや交流のきっかけ

最後に当日に伺ったバザー参加者の方々の声を 紹介する。

#### 今年の祭りへの意気込み

- ・通所施設利用者の方々が作ったぬか漬けやたこ せんを昨年よりたくさん売る!
- ・今年は太鼓教室の子供たちが「獅子」とステージで初共演するということで、「獅子」としっかり合わせて太鼓を演奏する!

#### あさかで祭りの魅力

- ・地域のつながりや交流のきっかけが生まれると ころ
- ・皆が仲良く、和気あいあいとした雰囲気
- ・障害をもった方でも気軽に参加できる
- ・バザーの値段が安いこと(笑)
- ・以前はあさかの地域にとどまっていたのが、他 の地域との交流や、大阪市立大学の学生さんの 参加が増えてきた

#### 人と人が織りなす化学反応

ところで、今年のあさかで祭りは「思いをひとつに」というテーマが掲げられていた。これは、今年起こった東日本大震災の被災地に向けてのメッセージでもある。先ほどの浅香太鼓集団「獅子」は、9月に現地で公演を行った。被災地では、観客と一体となり、人と人とのつながりを実感したそうだ。だからこそ今回は、特に力が入った演奏だと感じられた。



写真=浅香太鼓集団「獅子」の和太鼓演奏

この祭りだけでなく地域で開かれるイベントには、地域と関わる醍醐味が詰まっている。例えば、人と人が関わり合う相互作用によって、また新たなつながりができたり、その変化を楽しむこと。ぜひ皆さんも日々の生活の中で、人と人が織りなす化学反応を楽しんでほしい。

島田隼人 (Hijicho)

11月27日(日)に大阪市長選挙と大阪府知事選挙のダブル選が行われる。市長選は大阪市立大学の設置者を決めるという意味でも重要であるし、府知事選については多くの市大生が有権者の立場だ。しかし近年、選挙での投票率が低迷している。大阪市長選の前回の投票率(2007年)は43.6%であり、1995年の市長選に至っては28.4%という低迷ぶり。その背景には、特に20歳代の有権者の投票率の低さがある。前回の市長選での20歳代の投票率は20.8%であり、1995年の市長選では、わずか11.4%しか投票に行っていない。いったいなぜ若者は投票に行かないのだろうか。

#### 「投票に行っても意味ない」

「投票なんか行っても意味ないよ」という声がよく聞かれる。数十万・数百万という有権者がいる中で、自分の1票がいったい何の役に立つのか、ということだろう。しかし、投票に行かなければ何かが変わるのだろうか。

中学・高校で「テストの答案は全部埋めろ。答えを書いたらもしかしたら点になるかもしれないが、空欄だったら絶対点にはならないぞ」ということを言われた記憶はないだろうか。選挙も同じではないだろうか。投票に行っても自分の思うようには変わらないかも知れないが、もしかしたら自分の1票が決め手となるかもしれない。しかし、投票に行かないで自分の思うように政治が変わらなかったとしても、仕方ないだろう。

#### 「選びたい候補者がいなかった」

投票しない理由に「候補者の中にまともな人がいなかった」というのも考えられる。候補者の中に自分が支持する人物がいなかった場合、たしかに投票することはできないだろう。そういう場合は、何も書かずに白票を投じてみてはいかがだろうか。わざわざ投票所に行って無効票となることをわかって投票することは、たしかに無駄足と感じるだろう。しかし白票というのは「私はあなたがたの誰も支持していない」という立派なメッセージだ。白票が増えれば、政治家に対する圧力となり、より良い政治を促すことにもなる。

#### 「投票日に用事がある」

投票日に用事があるため、投票に行けないという方もおられよう。そういう人のためにある制度が「期日前投票」だ。「期日前投票」とは、その名の通り投票日当日に何らかの用事があるため投票に行けない人が、投票日の前に投票できる制度のこと。告示日の翌日から利用でき、土・日、祝日でも投票可能だ。

#### 期日前投票

#### 市長選

日時:11/14 (月) ~11/26 (土) (土・日、祝日可) の8:30~20:00

場所:選挙人名簿に登録されている区の区役所 持ち物:投票案内状(なくても投票はできる が、住所・氏名等の確認が必要)

#### お問い合わせ

大阪市選挙管理委員会事務局 選挙課 電話:06-6208-8511 FAX:06-6204-0900

#### 府知事選

日時:11/11(金)~11/26(土)(土・日、祝日可)の8:30~20:00

場所:各自治体の役所等 (詳しくは各自治体の HP等で)

持ち物:投票案内状 (なくても投票はできるが、住所・氏名等の確認が必要)

#### お問い合わせ

選挙管理委員会事務局

電話:06-6944-9118 FAX:06-6944-3548

#### 「よくわからない」

また、投票に行かない理由のひとつとして「政治はよくわからない」というのがある。たしかに、普段から政治に関心を持っていない人にとって、たった10数日で投票する相手を決めろというのはなかなか難しい。今の選挙制度にも問題はあるだろう。

しかし、政治のすべてがわからなければ投票できないのだろうか。そんなことはないだろう。わかる範囲で投票すれば良い。今回は、市長選と府知事選で最低限押さえておきたいポイントをまとめてみたので、そちらも参考にされたい。

#### ~市長選候補者の顔ぶれ~

市長選に立候補を表明しているのは現大阪市長の平松邦夫氏 (62) 、前大阪府知事の橋下徹氏 (42) の2人。 (2011年11月5日時点)

#### 平松邦夫氏

大阪市長の平松氏には、民主党や自民党が支援を表明している。平松氏は財政改革についての実績をアピール。職員の給与カットや職員数削減に取り組み、市政を担当し始めた2007年から、健全化判断比率の4つの指標(実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担費比率)について、国が定めた基準をすべてクリアしている。また、市民との「恊働」を理念に活動し、市民と共に放置自転車やひったくり対策に着手した。特にひったくりは、34年連続で全国ワーストワンであり「大阪名物」とまで揶揄されていたが、2010年にワーストワンから抜け出した。また、大阪市と大阪府の関係については、いわゆる「二重行政」の解消のため「府下版広域連合」を提唱し、市長選の公約に盛り込んだ(後述)。

大阪市がしばしば槍玉に挙げられるのが生活保護だ。大阪市の生活保護の受給世帯は全国最多の15万人以上(5.63%)であり、総額は2900億円を超える。ただし、生活保護費は多くは国が負担し、市の支出だけで見ると150億円ほどであり、むしろ「150億円ほどの支出で2900億円規模の事業を行っている」とする見方もある。

ただ、平松氏の実績は市民には見えにくく「地味」との批判は免れない。また、最近の平松氏の政策や発言は、「維新の会の政策について反対」という状態であり、独自の政策を語っているとは言えないだろう。「府下版広域連合」についても説明が十分なされているとは言えず、これからしっかりとした説明を行っていく必要があるだろう。

#### 橋下徹氏

元大阪府知事であり、地域政党「大阪維新の会」の代表を務める橋下氏は、府民からの高い人気を背景に次々と「改革」を行ってきた。大阪府と大阪市の関係については、「大阪都構想」(後述)を掲げ、4月に行われた統一地方選では、維新の会が府議会では過半数、大阪市議会では第1党を獲得するなど躍進した。時には過激な言葉で次々と

話題を作り、反対派を「抵抗勢力」として徹底的 に攻撃する手法には賛否両論はあるが、市民に とっては「わかりやすい」発言が支持につながって いるのかもしれない。

橋下氏は「民意」を強調する。統一地方選での大勝、8月での守口市長選での勝利は「民意」の現れと見る。選挙公約 (マニフェスト) にはないことも「我々は選挙で選ばれた」という理由で次々と実行していった。統一地方選の選挙公約にはなかった「君が代起立条例」を府議会で可決したのは記憶に新しい。

ただし、財政に関しては改善されているとは言い 難い。

橋下氏はしきりに「府の借金を減らした」と主張している。これは府債残高が減っていることを意味しているのだが、臨時財政対策材 (臨財債) が大幅に増えてトータルでは赤字が増えている。

また、大阪府咲洲庁舎 (WTC) に関しても批判が出始めている。橋下氏は2009年3月にWTCへの府庁舎移転案とWTCビル購入案を府議会に提出したが、いずれも安全性に疑問があるとして、反対多数で否決された。だが、同年10月に再び同条例案を提出し、府庁移転案は否決されたものの、ビル購入案は可決された。そして2011年3月11日に起きた東日本大震災でWTCビルの安全性に疑問が生じ、災害拠点としての使用を断念。結局、耐震補強などで巨額のお金をつぎ込むこととなり、「結果責任」を問う声が高まっている。

### ~府知事選候補者の顔ぶれ~

府知事選挙には「大阪維新の会」幹事長の松井一郎氏 (47)、大阪府池田市長の倉田薫氏 (63)、共産党が支援する梅田章二氏 (61) がそれぞれ立候補を表明している。(2011年11月5日時点)

#### 松井一郎氏

維新の会の幹事長である松井氏は「橋下府政を 継承する」としている。また、維新の会の公約と して「大阪都構想」「教育基本条例 (後述)」「職 員基本条例 (後述)」を掲げている。知名度の面で は橋下氏に遠く及ばないが、「人ではなく政策で 選んでほしい」としている。

ただ、橋下氏は「維新の会の府知事候補は外部から擁立する」としていたにもかかわらず、幹事長である松井氏に出馬を打診。維新のメンバーにも明かされていなかったようであり、維新内部でも波紋が広がっている。

#### 倉田薫氏

池田市長である倉田氏は元々橋下氏と交友があるが、今回出馬を表明。維新の会の府知事選候補者決定の際の手法を疑問視し「卒維新」を掲げ、 民主・自民などが支援する意向で、平松氏も連携に意欲を見せている。

倉田氏が出馬を表明した背景には、府下の首長たちの厚い信頼がある。橋下知事の就任当初、市町村補助金の大幅削減案を打ち出した際、猛反発する市町村長の前で涙した橋下知事に対し「泣きたいのはこっちだ」と発言した。今回、倉田氏擁立の際に府下の市町村長が署名活動を行い、池田市を除く府内の42市町村長のうち、30人から出馬に賛同する意向を得られ、「30人の首長の熱い思いを受け、断る理由はない」と述べた。

「大阪都構想」について「(大阪市の)260万人の基礎自治体は大きすぎる」と理念に理解を示した上で、国の法改正問題があることや維新の会の具体的中身やスケジュールが不明確な点があることから争点化を避ける意向を示している。

#### 梅田章二氏

弁護士で、共産党が支援する梅田氏は、「原発ゼロ」を公約に掲げている。その他にはくらしと福祉の安全・安心、子どもたちが輝く教育、中小企業支援を改革の柱とし、災害への備えでは、東海・東南海・南海の3連動地震を想定した府総合防災計画を策定し、学校耐震化は2014年度までの完了を目指すとした。JR大阪駅北側の再開発地区「うめきた」に、災害時の避難場所にもなる公園の整備も掲げた。

維新の会が公約に掲げる教育基本条例案については、「子どもに過酷な競争を与える一方、教職員に相対評価の締め付けを強いる」として反対姿勢を強調した。



### ~重要政策について~

ここでは、ダブル選で各候補者が争点と主張している政策についてみていきたい。

#### 「府下版広域連合」(平松氏)

平松氏が市長選の公約に掲げるのが、大阪府と大阪・堺両市が加盟する「府下版広域連合の設置」だ。府と大阪市の「二重行政」の解消などが目的で、広域行政の在り方を議論する場を設けて将来の「関西州」実現につなげる狙いがある。平松氏は「港湾、道路、空港といった広域行政をどこが責任で担うのかを話し合いたい」などと語った。

府下版広域連合には、府内の中核市にも参加を呼びかけることを検討。「目指すのは関西州。府下版広域連合をつくる方が、大阪都をつくるよりも早いし、法改正が必要ない分、実現性も高い」と述べている。

#### 「大阪都構想」(橋下・松井氏)

橋下氏と大阪維新の会が提唱するのが「大阪都構想」だ。元々は府と大阪市の「二重行政」を解消する目的で提唱された。二重行政とは府が担うべき事業を政令指定都市である大阪市も行っており、同じような事業が大阪市域で行われることをいう(府立図書館と市立図書館、府立大学と市立大学など)。

大阪都構想のメリットは、大阪市と堺市が合併し、大阪都になることによって行政が一つにまとまり、各区に予算を分配でき効率化が図れること。また、首都機能を兼ね備えることにより、各地域に地下鉄等公共機関への延伸・新線を作ることによって利便性、生活性が高まり景気が上がる起爆剤にもなる。

大阪都構想の欠点として指摘されているのは、 モデルとしている東京都では特別区の一部から都 政からの脱却を図る動きが見られていることがあ る。また、現在の東京都の制度は戦前に導入が試 みられ、その後、戦時体制という特殊状況下で国 政によるトップダウン方式で成立した歴史を有し ている。地方分権は、本来ボトムアップ方式であ り、地域住民が主体となる新たな自治の時代にお いて適正かつ妥当なモデルであるか、という指摘 がなされている。

さらに、橋下知事のブレーンである大阪府顧問 の上山信一氏がTwitter上で「二重行政はたいした ことない」と、都構想そのものの意義を否定しているともとれる発言をしている。

#### 「教育基本条例案」(橋下・松井氏)

「教育行政からあまりに政治が遠ざけられ、教 育に民意が十分に反映されてこなかった結果生じ た不均衡な役割分担を改善し、政治が適切に教育 行政における役割を果たし、民の力が確実に教育 行政に及ばなければならない」。これは教育基本 条例案の前文に書かれていることである。戦前の 教育と政治の一体性を反省し、戦後は「教育の政 治的中立」が基本であった。この「教育の大原 則」を根本から変えようというのが教育基本条例 案だ。知事が府立学校の教育目標を定め、目標が 実現できない教育委員は罷免される。また、相対 評価を導入し必ず5%の教員に最低ランクの "D評 価"をつけなければならず、2年連続でD評価がつ いた教員は、分限免職を含む処分が行われる。さ らに、3年連続で定員割れを起こした学校について は廃校となる。

教育基本条例案については「教育の政治的中立性が失われる」とし、教育委員会やPTAからも撤回を求める声が上がっている。そのため、維新の会では当初の案から変更を検討している模様だ。

#### 「職員基本条例案」(橋下・松井氏)

公務員改革を目的として維新の会が主張するのが職員基本条例案だ。人事評価や処分ルールを明確化する目的であるとしている。相対評価を導入し、必ず5%の教員に最低ランクの "D評価" をつけなければならず、2年連続でD評価がついた教員には分限免職を含む処分が行われる。また、職務命令に3回違反すれば原則分限免職となる。9月議会に提出され、大阪市議会では否決されたが、府議会では継続審議となっている。

#### ~専門家の目~

今回のダブル選を、市大生はどのようにみればよいのだろうか。本学の法学研究科の砂原庸介准教授 (政治学) にお話を伺った。(聞き手:近藤龍志 (Hijicho)、井坂直矢 (Hijicho))

#### ―平松市政への評価は

平松市長を評価するのは、難しいですね。特に 目立った政策をとったわけではないですから。橋 下知事の当選以降、知事のアクションにどう応え るかということに終始していた感があるので、彼 自身のリーダーシップというものを評価すること が難しいんです。

市の財政には、公務員の給与削減など若干改善した面も見られます。改革の動きはあったと思いますが、知事の存在の影に隠れてあまりオープンにならなかった。そこが残念なところです。

#### ―橋下知事への評価は

振り上げた拳を下ろすのが上手いなと思います。何かを攻撃・挑発して散々大衆を煽っておきながら、大衆の気づかないところで妥協している、ということが多いですね。

彼の実績は府市の水道事業の統合や、ダム政策における受益者への説明など、彼なりのビジョンをもって都市作りに取り組んでいるところにあるでしょう。

よく話題になる「大阪都構想」ですが、公表された段階では私は好感をもっていました。というのも、吹田や八尾などもまとめて特別区にしてしまおう、というのがあったからです。現在は、ベッドタウン(吹田や八尾)から大阪市に通勤する人がとても多いと思いますが、彼らの納める住民税はベッドタウンに使われるんです。しかし、彼らは地下鉄などのインフラを使って生活しているわけですから、彼らの税金を都市部に集中・再投

資できるようにしよう、という発想は十分にあり うる議論だと思います。

ただ、後に区長公選制・予算権限を区に与える、 ということが出てきましたが、それだと集中投資と いうよりは各区に分散して投資が行われるようにな ると思います。そうなると、都市部の集中投資とい う考えからは逆行しているのではないかと思いま す。それならば「都」というよりは、大阪市を分け る「分市」に近い性格が強くなると思います。

他に、教育基本条例・職員基本条例案が取り沙汰されていますが、これは都構想との関係はないでしょうし、なぜ今この提案がされるのかよくわかりません。彼自身が選挙に負けるのではないかという危機感をもっていて、それが他所を攻撃するという行動に現れているのかもしれません。

#### ―この選挙に臨む学生にアドバイスを

よくテレビで言われているような、「独裁者」 を認めるかどうか?というような単純な構図で捉 えることは避けた方が良いと思います。もちろん、 投票する皆さん自身が様々な評価軸をもって選挙 に臨まれることかと思いますが、「自分がどのよ うな評価軸で評価しているのか」という点を意識 して、多様な角度から問題を捉えて判断する必要性 があると思います。

井坂直矢 (Hijicho)

#### 当日の投票

#### 市長選

日時: 11/27 (日) 7:00~20:00 場所:投票案内状に記載

持ち物:投票案内状(なくても投票はできるが、

住所・氏名等の確認が必要)

#### お問い合わせ

大阪市選挙管理委員会事務局 選挙課

電話:06-6208-8511 FAX:06-6204-0900

#### 府知事選

日時:11/27(日)7:00~20:00

場所:投票案内状に記載

持ち物:投票案内状 (なくても投票はできるが、

住所・氏名等の確認が必要)

#### お問い合わせ

選挙管理委員会事務局

電話:06-6944-9118 FAX:06-6944-3548

### 寄稿連載

# ◇ ホリーの123日間世界一周紀行 (第2回) ◇ ~東南アジア紀行~

この記事は、掘井祐貴さん (商学部2007年入学) から寄稿していただきました。彼は2011年10月1日から翌年1月31日まで、123日間かけて世界一周の旅に出ています。全6回の連載を通して、日本では味わえない彼の海外見聞録を皆さまにお届けします。

市大生のみなさんこんにちは、ホリーです!いよいよ世界一周が始まりました。旅立ってから1ヶ月近くが経ちますが、まだまだ刺激の多い毎日を過ごしています。

#### 10バーツで買える笑顔

さてさて、最初の渡航地はタイのバンコクです。 バンコクに着いたのは10月1日の夕方ごろ。バック パッカーの聖地、カオサンロードという場所にな んとか到着し、宿を確保しました。しかし、初日 から風邪を引いてしまってあまり観光はできず (笑)、その分ホステルの周りの屋台や露天を回って 時間を過ごしました。

その中でも印象的な出来事を一つ紹介します。あ る露天でTシャツを買おうとしたときです。お店の 女の人は「180バーツ」と言ってきますが、ここの 人たちは旅行者に高い値段をふっかけてくるの で、「100バーツ!」と値下げ交渉をします。する と彼女は、「は?ふざけんな、帰れ帰れ」という 目で見てきます。しかし、立ち去ろうとすると 「170バーツでどう!?」と言われます。それでも 無視すると呼び止められ、他の客には見えないよ うに160と表示された電卓を見せられます。まだま だ高いので再び歩き出すと、「150!140!」と大 声で叫んできます。一度電卓で他の客に数字を隠し たのは何のためだよ、と思うとおもしろくなって 笑ってしまいました。再度近づいて「130バー ツ!」と言うと、彼女は渋々納得した顔で「OK」 と言いました。130バーツ丁度が財布になかったの で(札は20バーツ単位)、140バーツ差し出す と、彼女は10バーツのコインを返そうとします。 「釣りはいらないよ」と言うと、それまで険悪な 顔をしていた彼女の顔からついに笑みがこぼれまし た。たった10バーツで買える笑顔、安いと思いま せんか?



写真=露天では様々な品物が売られています (筆者写す)

#### 旅は道づれ、アンコールワット

バンコクからバスに揺られること10時間、アンコールワット観光の拠点となる、カンボジアのシェムリアップにやってきました。ここからは、バスで乗り合わせたオーストリア人、オランダ人、イギリス人、フランス人、アメリカ人と行動を共にすることになりました。フレンドリーなアメリカ人、紳士的なイギリス人、大麻中毒のオランダ人の大いておもしろかったです。特に大麻中毒のオランダ人がイカれてました。バンコクでは、屋台で売っているバッタやトンボを食べていたそうで、シェムリアップで夕食に行った際も「犬の肉が食べたい」とずっと言っていました(笑)。そんな人と三日間も二人きりで同じ部屋に泊まるのは、ハラハラドキドキでした。

さてさて肝心のアンコールワットですが、素晴らしかったです!特に写真でよく見る一番大きな遺跡は圧巻の存在感でした。ただ、似たような遺跡が多いので後半は若干ダレてきましたが…(笑)。アンコールワットは超巨大で、全部の遺跡を見て回るのは不可能に思えます。効率よく回るには現地のツアーなどを利用するのも手だと思います。また、曇

りだったので見れませんでしたが、アンコールワットの朝日は絶景だそうです。機会のある方は是非!

#### 喧騒と静寂のベトナム

またまたバスを乗り継ぎベトナムにやってきました。ベトナムでは、南部の中心地ホーチミンから、中部の都市ホイアンを経由し、北部の中心地ハノイまでバスで移動しました。インフラが整っていないため非常に時間がかかりましたが、途中の主要都市で下車可能だったのは非常に良かったです。

ベトナムで感じたことは、都市によって雰囲気が かなり違うということです。商業の中心地ホーチミ ンは、あり得ないくらいの数のバイクが道路を行 き交い、交通ルール無視、クラクション鳴らしっ ぱなしの騒々しさです。一緒にいた日本人の友人 は、バイクにぶつかりました(大事には至りません でしたが)。客引きのしつこさも異常で、断っても 断っても人力車やバイクタクシーのおっちゃんがつ いてきます。一方、政治都市ハノイは大都市といえ ど、どこか落ち着いた雰囲気で、ホーチミンほどの うるささはありません。道路沿いに大量に植えら れた並木や、かつての占領国フランスの影響を受 けた建物が多く、おしゃれな雰囲気に満ちていま す。そして古都市ホイアンは、昔のままの建物が残 されており、古い町並みが世界遺産に登録されてい ます。観光客こそ多いものの、ホーチミンやハノイ とは比較にならないほど落ち着いています。簡単に 分けると、ハノイ→東京、ホーチミン→大阪、ホイ アン→京都、といった感じでしょうか…ちょっと 強引ですが (笑)。

同じ国の中でも都市ごとに違った雰囲気を有しているというのは、旅をしていてとても興味が惹かれます。特にベトナムという国は、都市によっては歴史上フランスや中国の影響を大きく受けていて、そういう知識を持って各都市を回ると、また違った風景が見えてきます。



写真=ホーチミンのバイクの交通量は異常 (筆者写す)

#### 東南アジアの魅力は「人」

東南アジア三カ国を回って言えることは、この 地域の魅力は「人」だということです。北米やヨー ロッパにも行ったことがありますが、それら先進 国の魅力は建物や自然などで、全てが整然としてい ます。対して東南アジアは、特筆するほど有名な観 光地は少ないですが、街中での現地人とのやりと りや、日常の喧騒が見ていて楽しいです。そこには 常に人との関わりがあり、値段の交渉など、先進 国ではできないような経験ができます。

東南アジアには、概してバックパッカーを引きつける魅力があると感じました。ぼったくられる可能性が高いのでバックパッカー同士が仲良くなろうとする引力が強くなりますし、物価の低さもお金のない大学生には魅力的に映ります。僕は三カ国しか回っていませんが、それぞれの国毎に特色があり、是非他のアジアの国にも行きたいと思っています。日常のごちゃごちゃ感が織り成す「人」の魅力…バックパッカーデビューをしたいと考えている人には、東南アジアをおすすめします。

これからインドに飛び、その後はトルコからポルトガルまでの陸路横断です。次回は東ヨーロッパ紀行です。それではまた来月!

掘井祐貴さん (商学部2007年入学)

#### 筆者の個人サイト

プログ「Stuff i Like ~Around The World~」 (http://torontooo.exblog.jp/) Twitter「@Yuki\_Holy」 (http://twitter.com/#!/Yuki\_Holy)

#### お問い合せ

#### Hijichoへのお問い合せ

記事の提供、ご意見・ご感想、編集に興味をお 持ちの方は お問い合わせフォームからご連絡く ださい。

#### 筆者へのお問い合せ

世界一周に興味がある方、旅に関するご質問およびご相談は、上記の「筆者の個人サイト」から直接筆者にお問い合せください。

# 連載コラム ◇大学生活の新しい選択肢◇ 自分が「海外インターン」を選んだ理由 Vol.2

前回より記事を寄稿していただいてるのは、本学法学部4回生の古川浩康さん。今年の4月に始まり10月までの間、アイセックを通じてインドの現地アパレル企業にて海外インターンシップを行った。海外インターンを通しての知見や考え、また他の海外機会にはない醍醐味をお伝えいただく。

こんにちは、法学部4年の古川です。

前回からHijichoさんのほうで自分が参加した海外インターンシップについての記事を書かせていただいています。まずインターン参加の背景となった自分の問題意識について書いた初回に引き続き、2回目の今回は、なぜ「インターン」という手段を選んだのかについて書ければと思います。

前回書いた国際会議で海外の優秀な若者と接したことによって、自分は、何もできない自分や総体として劣ってしまっている日本の若者に危機感を感じ、また世界と戦える日本人になりたいと思うようになっていきました。その中で最終的に自分は海外インターンという選択をしたのですが、それは自分がインターンには以下2点のような特徴があり、自分の問題意識にアプローチするために最適な方法だと思ったからです。

#### ①「外国人と仲良くなる」ではなく「外国 人と仕事をして成果を出す」経験ができる

よく留学エージェントのキャッチコピーに、"世界中に友達を作ろう!"などという言葉がありますが、「英語で外国人と仲良くなること」ができる人は世の中には沢山居るでしょう。これは旅をしても留学に行っても国内で国際交流をしても、仲良くなることであれば経験できることだからです。

しかし、「外国人と一緒に英語で仕事をして、 成果を出せる人間」は世の中に一体どれくらい居 るのでしょうか。

インターンといっても自分の参加した物はフルタイムかつ有給のため、実質半年間現地の企業に正規雇用されるのに近いです。働く中で軋轢が生まれることも、習慣の違いで頭を悩ませることも幾度となくありましたが、それを乗り越えることで他では得られない成長ができるのではないかと感じました。

そしてもはや言うまでもなく「グローバル化」の 影響が身近な物になってきている今、「外国人と 仕事をして成果を出す」ことを経験し、様々な困 難を乗り越えてきたような人材こそが求められてい るのではないかとも思っています。

(実際何を現地でやってきて、どのような成果を残せたのかは次回の記事にて書きます。)



写真=筆者(右)と現地の上司(左) 考え方の違いや仕事の進め方などで衝突したこともあり ましたが、とても多くのことを学ばせてもらえた尊敬す る人です。

#### ②自分だけの経験で終わらせるのではなく、 発信の機会を多々持てること

自分の参加しているプログラムでは、団体のリソースを活用することで、得た経験を外部に発信する機会を持つことができます。本人が希望しやる気があれば、自分の周囲だけでなくより多くの人に伝えることが可能です。実際これまで多くのインターン経験者の方々が経験してきたことを様々な人に対して語り、刺激を与えてきました。自分も最初インターン経験者の方の話を聞いた時は、「同じ大学生でもこんな面白いことをしている人が居るのか」と驚いたことを覚えています。

せっかく休学までしてインターンに参加するのだから、もっと多くの人に海外に挑戦してもらえる「きっかけ」になることはできるのでは。そうして少しでも世界を知る若者を増やすことができれば、日本の若者が変わっていくことに貢献できるのでは。まだ学生にしか過ぎない自分が偉そうなことを書いてしまいましたが、そういったことを自分は考えています。Hijichoさんにお願いして記事を書かせていただいているのもこういう理由があるからです。

ちなみにそれ以外では、

- ・ダイヤモンド社の海外インターンブログの執筆
- ツイッターでのリアルタイムでの発信
- ・所属団体のOBOG会において、インターンシップ 報告会の実施 (11月に開催予定)
- ・兵庫県立西宮高校で、高校生の海外志向向上 のための出前授業 (11月に開催予定)
- ・自分の出身高校で高校生の意識啓発のための 講演会 (12月に開催予定)

などを行ったり企画したりしています。



海外インターンシップブログです。世界中で戦っている 大学生の生の声が多数掲載されているので、興味のある 方はぜひHPを覗いてください。

(http://www.mentor-diamond.jp/blog/aiesec/)

特にインターン中に幾度となく書いたブログやツイッターには様々な人から反響があり(インドで現地人に混ざりながら働いている大学生、というのが珍しかったようです(笑)、「刺激をもらった」「自分も海外に行きたい」そんな声をいただくたび、経験を発信して良かったと思いました。

以上2点を備えているのが「海外インターン」であり、自分にとって最適なアプローチだと思ったので、自分はこの機会に参加することにしました。もちろん留学やバックパックなど他の機会で海外に行くことも大変意義のあることだと自分は思いますが、もし皆さんが海外行きを検討されるのであれば、インターンもぜひ選択肢の一つにあげてもらえたらとても嬉しいです。

今回は海外インターンシップを選んだ理由について書きましたが、次回からはより具体的な話(どんな仕事をして、どんな生活を送っているのか)に入っていきたいと思います。

古川浩康さん (法学部2008年入学)

#### 筆者の関連サイト

筆者のブログが掲載されているサイト「アイセック 海外インターンシップ Blog」 (http://www.mentor-diamond.jp/blog/aiesec/) Twitter「@fullbeee」 (http://twitter.com/#!/fullbeee)

#### お問い合せ

#### Hijichoへのお問い合せ

記事の提供、ご意見・ご感想、編集に興味をお持ちの方は お問い合わせフォーム (http://hijicho.com/?page\_id=330)からご連絡ください。 **筆者へのお問い合せ** 

海外インターンに関して質問および相談のある 方は、上記の「筆者の個人サイト」または Twitterから直接筆者にお問い合せください。

# F.L.D 冬季公演

大阪市立大学・奈良女子大学 冬季英語劇合同公演 2011

### ペテン師と詐欺師

#### ~DIRTY ROTTEN SCOUNDRELS~

南フランスの高級リゾート、リビエラが舞台。

この界隈を仕事場とするイギリス人詐欺師のミシェル・ジェイムソン(松谷真裕子)は、一見上品な大金持ちの淑女。そこへやって来たアメリカ人でけちなペテン師のブリトニー・ベンソン(羅小珊)。ベンソンはジェイムソンの華麗な仕事ぶりに感心し弟子入りを志願。しかし、やがて流儀の違う二人は対立。「一つの土地に二人の詐欺師はいらない」と縄張りとプライドを賭けた「勝負」が始まる。

### 日時 2011年11月27日(日) 開場 14:00 入場無料

開演 14:30 日本語字幕あり

### 場所 奈良女子大学 講堂 (近鉄奈良駅から徒歩約5分)

【キャスト・スタッフ】 松谷真裕子 羅小珊 堂村裕史 岩本麻奈美 丸谷陽香 石井一史 薮内富士子 板東瑞穂 別所万美



奈良女子大学 HP アドレス (http://www.nara-wu.ac.jp)

今回の冬期英語劇公演は奈良女子大学との合同公演となりました。公演場所も奈良女子大学と例年とは違った形になりますが、頑張ってまいりますのでどうぞ足をお運びください。



公演に関する詳しい情報とお問い合わせは http://ocuess.jimdo.com または http://twitter.com/OCU\_ESS でも後日連絡いたします

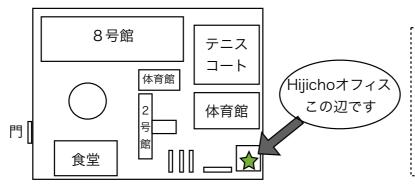




# Work Together

# スタッフ募集

Hijichoは『つながりの創出による地域活性化』を団体ビジョンに掲げています。主幹事業として月に1度のペースで市大新聞を発行しています。毎週木曜日の編集会議を基本活動とし、アポ取り、取材、紙面レイアウト、写真、企業への渉外、地域交流、イベントの主催、など多様な活動を展開しています。そんな空間に身を置いて自身を高める。本気で語り合える仲間との出会い。さあ、Work Together しよう! 興味ある方はお気軽にご連絡ください。



Hijichoオフィスは旧教養 地区最南東BOX棟 1 階右 手の2つ目のBOXです。 興味のある方、御用のあ る方は、お気楽におこし くださいませ。

メールでお問い合わせ→ hijicho@gmail.com

Twitterはこちら→ @hijicho